

タイトル	川上先生を送る言葉
著者	本城, 誠二; HONJO, Seiji
引用	北海学園大学人文論集(62): 21-22
発行日	2017-03-31

# 川上先生を送る言葉

本 城 誠 二

川上先生、長い間研究と教育にご尽力され本当にご苦労様でした。さてご退職に当たり送る言葉の執筆を任された私が川上先生に初めてお会いしたのは、先生が教育大釧路分校を卒業され北大文学部の大学院に進学して来られた昭和48年(1973年)の事でした。もう43年も前になるのですね。当時は(たぶん今も)文学部の3階の奥の部屋が英文科学部生のたまり場で、隣が資料室兼院生の部屋でした。院生の川上先生と学部生の僕たちも時々同じ講義を受け、コンパでもご一緒しました。当時の北大キャンパスは中央ローンでジンギスカンをする事も自由でした。

川上先生の1年上には同じ教育大釧路校から進学された伊藤章先生(北星学園大学)がいました。アメリカ文学の研究仲間でもある伊藤先生にお聞きしたところ、授業が終わったあと二人でよく英語の本の読み合わせをしたそうです。英語はよく読めたと仰っていました。当時は二人とも北7条西8丁目の「清華亭」近くに住んでいた事もあって、ジャズ喫茶の「ジャマイカ」にお連れしたところ、川上先生もジャズに熱中するようになったそうです。

さて大学院を卒業後の北海道教育大旭川校での教員時代については残念ながらよく存じ上げません。幸い人文学部に川上先生の指導を受けた田中洋也先生がおいでになるので、旭川時代のエピソードを聞いて見ました。当時の教育大旭川校では少数ゼミ制で1~4年生までが同じ指導教官の研究室で学ぶ事になっていたそうです。英米文学・英語教育などのゼミが5クラスある中、川上ゼミではウィスキーを飲みながらイエイツを読み、ゼミの後には学生と街に繰り出して親睦を深めたようです。

その旭川から平成14年に北海学園大学に移られた先生の研究室には、確

かにワイングラスやウィスキーのボトルがありますので、旭川の良き伝統を引き継いでいらっしゃるのだと思います。また札幌に移られた時にご案内した小料理屋は今では川上先生御用達となっています。もちろん川上先生ご自身が開拓したバーやお寿司屋さんもたくさんあるように聞いています。

学生の面倒見が良いという事では教育大時代だけではなくて、現在も一貫していると思います。というのは、教職課程の学生の教育実習に際して課程委員が実習先を訪問するのですが、川上先生は道内各地で教員になっている卒業生との再会を楽しみに率先してその仕事を引き受けていました。

研究面についてはご存知のように、19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍し文学史上に大きな功績を残したアイルランド生まれの文学者W・B・イエイツの詩と戯曲を主として研究されています。退職間際になられても今回『年報 人文学』に初期の傑作と言われる「イニスフリーの湖上の島」についての論考を投稿され、昨年はイエイツの『幼年と少年時代の幻想』を英宝社から出版されています。またイエイツの別の作品の翻訳にも取り組んでおられるようです。

ご趣味の面ではお酒や美食の他にも、演劇全般に造詣が深く、歌舞伎にもよく行かれるように伺っています。これからは、ゆっくり翻訳や観劇、旅行などを楽しまれるといいですね。